

商店街に障がい者や高齢者の交流施設を整備  
誰もが来やすい商店街に

## 特定非営利活動法人 大牟田市障害者協議会 新栄町商店街振興組合

機関名	特定非営利活動法人 大牟田市障害者協議会 新栄町商店街振興組合		
所在地	福岡市大牟田市新栄町19番地9		
電話番号	0944-53-4538		
地域概要	(1)管内人口 135千人	(2)管内商店街数 22商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 1商店街	(2)会員数 74商店	
	(3)空店舗率 26.7%	(4)大型店空き店舗数 4店	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業（高齢者等交流施設）

- ・障がい者および高齢者の交流拠点の設置・運営

総事業費

7,500千円

### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

大牟田市は、福岡市の南、電車でおおよそ50分の距離に位置する人口約14万人の都市である。石炭産業を中心とした鉱工業都市として発展してきたが、平成9年に発展の礎であった三池炭鉱が閉山し居住人口の減少など、地域社会に多大な影響を与えた。

中心市街地においても小売商店数・小売業年間販売額が減少しており、空き店舗率が16.3%に達するなど、深刻な問題を抱えている状況である。中でも新栄町商店街の空き店舗率は19.3%（平成13年11月時点）と高く、同時に大型店が軒並み閉店、商店街全体の売場面積がピーク時の半分以下になっていることから集客力が著しく低下、集客力のアップを模索する必要に迫られていた。

また、大牟田市においては65歳以上の高齢者の割合が25%を超えている一方、年少者の人口は一貫して減少しており少子高齢化の進行が窺える状況である。

このような状況を受け、高齢者や障がい者等の多様な人達を受け入れる体制を整えることで、商店街が本来持っている人と人との交流の場としての役割を果たすことの重要性を認識し、本事業に取り組むこととなった。



大牟田市の位置  
(大牟田商工会議所HPより)

## 2. 事業内容

新栄町商店街は、昭和 45 年の新栄町駅設置をきっかけに大型店を中心に形成されてきた商店街であるが、その核的存在であった大型店が軒並み閉店に追い込まれ、商店街全体の売場面積がピーク時の半分以下になり、集客力が著しく低下している。一方、空き店舗になっている大型店跡の活用が次第に具体化してきており、商店街としてもこの機会にもう一度本来商店街が持っている人と人との交流の場としての役割を見つめなおし、新たな視点からの集客力アップを図っていくことを目的に、本事業に取り組むこととなった。



「ほっとかん」の外観

本事業は、大牟田市内の 25 の障がい者関連団体が参加する特定非営利活動法人大牟田市障害者協議会が新栄町商店街内にある空き店舗を活用して施設を開設、高齢者や障がい者の交流の拠点として商店街と連携を図りながら下記の 4 事業に取り組んだ。

- ・施設の名称 「街かど福祉・人の駅 ほっとかん」
- ・所在地 大牟田市新栄町 16-11（新栄町商店街内）
- ・施設概要 174 m<sup>2</sup>

### (1) 高齢者等交流事業

- ・無料休憩所、交流スペース、多目的トイレの設置

障がい者、健常者を問わず誰でも気軽に利用できる休憩スペースや交流スペースを設けたほか、24 時間対応の多目的トイレを設置して多くの人が来街しやすい環境作りを行った。

- ・「だれでもキッチン」の設置

障がい者などが自由に材料を持ち寄って好きな物を作って食べたり、食べさせたりすることができるキッチンを設置した。

### (2) 商店街利用者サービス提供事業

- ・タウンモビリティ

障がい者や高齢者が気軽に商店街で買物ができるように車椅子と電動カートの無料貸し出しを行った。

- ・商店街情報の提供

商店街で実施する秋のイベントや豆まき、パソコン教室の開催等についての情報をホームページやチラシを用いて積極的に提供した。

- ・福祉情報の提供と相談業務

ネットやチラシを活用して福祉に関するさまざまな情報を提供した。また、毎月第

## 新栄町商店街 特定非営利活動法人 大牟田市障害者協議会

- 1・第3木曜日に「だれでも相談室」を開設して障がい者とその家族の相談に応じた。
- (3) アンテナショップの設置・運営

市内の障がい者施設で作られた製品の展示や販売を行った。

- (4) イベントの開催

平成15年10月4日に「ほっとかん」をメイン会場にして新栄町商店街とタイアップして商店街全体でオープニングイベントを実施した。市内幼稚園児による鼓笛隊演奏や大牟田市障害者協議会加盟団体によるバザー、ステージイベント等が行われ、多くの人で賑わった。

商店街、ボランティアが協力して市民参加型のイベント「福祉の街づくりフェア」を開催した。商店街をメイン会場に、環境保護のためのリサイクル分別などの啓発と環境機器の紹介、福祉介護機器や福祉車両等の展示・相談コーナーを設けた。



「だれでもキッチン」



オープニングイベントの様子

### 【 効 果 】

#### 1. 来街者の行動

従来は商店街とのかかわりが少なかった高齢者や障がい者の来街が増え、イベントを中心に共に取り組む体制を整えることができた。また、一部の障がい者はこれまで外に出る機会も少なく、閉じこもりがちな状況におかれている人もいたが、「ほっとかん」ができたことで色々な人と交流したり、自分で調理を楽しんだり、商店街で買物をしたりというように、少しずつ自立し、社会参加するきっかけを作ることができた。

#### 2. 商店街の組織

「ほっとかん」と商店街が連携して様々な事業に取り組むことを通して、商店街の一体感が醸成されつつある。

## 【課題・反省点】

### ・PR

施設のPRを十分に行うことができなかったため、情報が一部のみにしか伝わらず、地域住民に広く認知してもらうことができなかった。今後はより多くの人に「ほっとかん」を知ってもらえるよう、イベントを中心としてPR活動を行っていく。同時にホームページを作成して、商店街のイベントや売出し等の情報を併せて提供するなど、商店街と連携したPR活動を行っていく。

## 【事業の実施ポイント】

1. 予め事業スケジュールをきちんと立てて、スケジュール管理をしながら事業を進める必要がある。
2. 事業本来の目的を常に再確認しながら事業に取り組み、事業の目的を見失わないようにすることが重要である。